抜きノベ

身動きできない満員電車でロリたちに勃起を勝手に出されて射精させられた話

ハメット written by Hammett

小さなおててでチンポを
おもちゃにされて
ヤバいのに気持ちイイ！
４人がかりで勃起を
容赦なくシコシコされて
盛大にぶっかけ射精！

まったく、最高だぜ。

体験版

■キャラクター紹介

姫乃（ひめの）

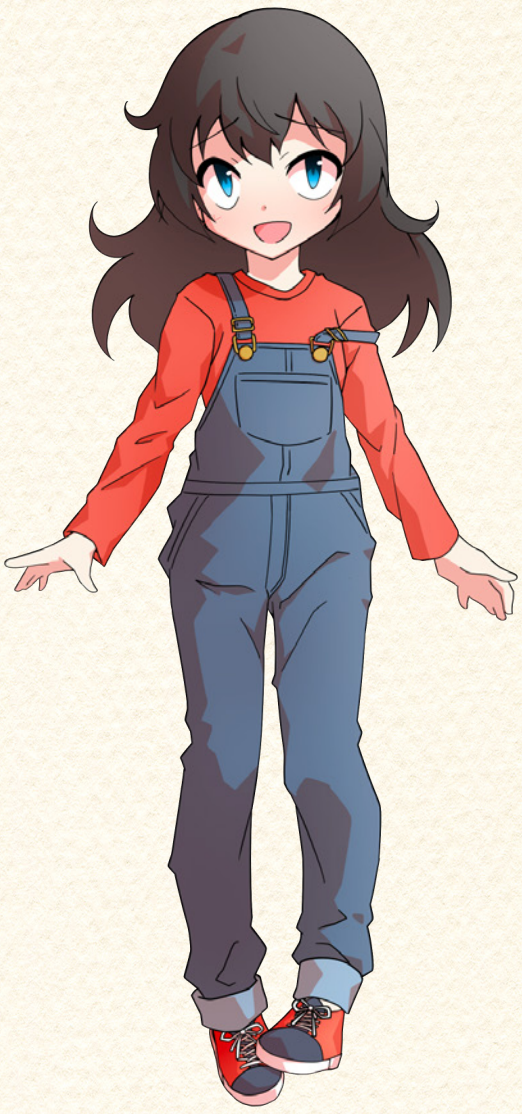
　ナマイキざかりのイタズラっ子。
　いつもパパを勃起させようと奮闘しているが未達成。
　はじめて目にした生勃起にテンションＭＡＸ。

杏月（あずき）

　ひかえめながらも性知識が豊富なムッツリ娘。
　おにいちゃんのエロ本をこっそり借りてオナニーするのが趣味。
　日課はおにいちゃんを起こしがてらの朝勃ちチェック。

莉玖（りく）

　男子に混ざって遊ぶことも多い元気っ子。
　お風呂では弟のおちんちんをしょっちゅうおもちゃにしている。
　勃起ちんぽとは初対面ゆえ恥ずかしさもありつつ、興味は津々。



凪（なぎ）

　いつもぽやっとしている不思議ちゃん。
　隙だらけなので悪いおとなにイタズラされることも多い。
　勃起をさわらせられたり精液をかけられたりしたことも。

　電車内に一歩踏み入れた瞬間、うしろから怒涛の勢い乗り込んできた人の波に流されて、オレはなすすべもなく車両の奥へ奥へと押されていった。

　あっというまに隅まで追いやられ、連結部近くの三人がけシート近くまで来たところで、思いきり足を踏ん張ってなんとか立ち位置を確保する。そうでもしないと、そのまま人流に押されて貫通扉で圧死でもしかねない勢いだった。

　それでもまだうしろからぎゅうぎゅうと押しやられるので、両手でそれぞれ吊り革をにぎりしめ、背を弓なりにそらせて必死に耐えた。押されるままにシートに座る乗客の頭上にでも覆いかぶさってしまおうものなら、気まず

いことこのうえない。
（ん……？）
　と、そこでようやく、目のまえのシートに腰かける小さなシルエットに気がついた。
　きょとんとした顔でこちらを見上げていたのは、四人の少女だった。
　身体が小さいので、三人がけのシートに四人で座っていても、ちっとも窮屈そうではない。
　オレは背後からの絶え間ない圧力を受けて背中をそらした状態のままだったので、彼女たちに向かって大きく腰を突き出すような格好になってしまっていた。
（いやいや、これ股間見せつけてるみたいでマズいだろ……）
　おまけにくたびれたジャージを穿いてきたもんだから、薄い生地の股間部がもっこりくっきりはっきりと盛りあ

がってしまっている。
　数駅先の町に住む悪友宅へ行くだけだからと部屋着用のジャージのまま来てしまったのだが、こんなことならもう少しマシな服を選んでおくんだった。
　しかしまあ、ほんの十分足らずの辛抱だ。
　心のなかで念仏でも唱えているうちにすぐ着くだろう。――いや念仏なんか知らないけど。
　ドアが閉まり、電車がゆっくりと動きだす。
　揺れのおかげで背後からの圧力がちょっとだけやわらいで、さっきよりは楽に立っていられるようになった。とはいえ、それでも両手で吊り革をつかんでいないと体勢をキープできないというのは変わらない。
　次の駅に着けば多少の乗り降りがあるだろうし、そのタイミングでうまく

立て直せれば――そう思ったとき、電車がゆっくりと停止した。まだ発車して一分とたっていない。
「えー、ただいまとなりの駅で非常停止ボタンが押されたため、安全確認を行なっております。確認がとれしだいの発車となりますので、申し訳ありませんがそのまましばらくお待ちください。お客様にはお急ぎのところご迷惑をおかけしまして――」
……どうやらまだしばらくはこのままの姿勢を保たなくてはならないらしい。
せめてもう少し楽にならないものかと、ぐっとケツで背後の客を押してみる。
しかし、より強い力で押し返されただけだった。
（くそっ、どんなヤツが……）
首だけねじまげてうしろを振り返る

と、ふわっと甘い香りが鼻をくすぐった。
（やべっ……）
　背後にいたのは制服を着た女子高生だった。
　いや、背後だけじゃない。見渡してみれば、近くに立っている客はオレ以外、みんな女子高生だった。
　まさか女性専用車両だったんじゃ、と焦ったが、遠くには男の姿が見えている。運悪くＪＫの集団に巻き込まれてしまったというだけのことらしい。
（しかし、まいったな……）
　周囲を女子高生に囲まれているとなると、うかつに身体を動かすこともできやしない。意図せずちょっとぶつかっただけでも痴漢だなんだと騒がれたら、そんな事実はなかろうとも速攻アウトである。
　緊張に身を固くしつつ、意識をそら

すつもりで目線をさまよわせていたら、眼下にちらつく肌色に焦点が定まった。
（おお……）
　目のまえのシートに座っている女の子たちは、あらためて見ると大変にけしからん姿をしていた。
　ポニーテールにした明るい髪の毛を楽しげに揺らす子の白いワンピースから伸びる、しなやかでまぶしい生脚。笑うたびに両脚をぱたぱた動かすので、太もものきわどいところまでちらちら見えてしまっている。
　小麦色に日焼けしたボーイッシュな子は健康的に引き締まった脚をショートパンツから大胆に露出しているうえ、ノーブラらしくＴシャツにはぽっちりとふたつの突起が浮かびあがっていて、無防備にもほどがある。
　ひかえめな笑顔を見せるおとなしそうなおさげの子もまた、ブラジャーを

つけていないらしい。汗っかきなのか、制服らしき白いブラウスの胸元が濡れて張りつき、肌とはあきらかに違う色がうっすらと透けてしまっている。

　ぼんやりとみんなの話を聞いているぼさぼさ髪の子は、夏だというのに長そでにオーバーオールという重装備で、一見すると見逃してしまいがちだが、厚着でも発育のよさをうかがわせる胸とお尻のボリュームが想像をかきたててやまない。

　どこかへ遊びに行った帰りなのか、みんなして手にファーストフード店の紙コップを持ち、ぷりぷりの唇でちゅうちゅうとストローをすすっている。

（いやいや、こんなの目の毒すぎるだろ。うっかり反応でもしちまったら……）

　目をそらそうとしたとき、制服の子がなにかを足元に落としたらしく、

座ったまま床に手を伸ばした。
（見えっ……!?）
　ボタンのはずされた胸元の隙間から、ちらっとピンク色の小さなつぼみがのぞいて、うっかり目が釘づけになる。
「あれ〜、どこいっちゃったんだろ」
　右へ左へ身体を揺すり、ほんのりふくらんだ左右のちっぱいのまんなかのくぼみまで見せつけられて、オレは目線を動かせなくなっていた。
「おっ、杏月（あずき）、それじゃね？」
　すぐ左に座るボーイッシュちゃんが指をさし、制服姿の杏月ちゃんがそこへ手を伸ばす。なお名前の漢字をなぜ知っているのかという点については、視認性と可読性を高めるためというメタ的な都合により華麗にスルーしてほしい。
「ほんとだぁ、莉玖（りく）ちゃん、ありがと〜」

杏月ちゃんが無事に落としものを拾い、顔を上げた。
顔を上げて、固まった。
（しまった……）
杏月ちゃんの目のまえにあったのは、オレの股間だった。
いつのまにか半勃ち状態になってさっきよりもはっきりと存在を主張するジャージ越しのチンポが、小さな顔のまんまえにあった。
じいっと数秒間、間近でオレの股間を見つめていた杏月ちゃんの頬が、ふいにへらっとゆるんだ。
ちらっとオレの顔を見上げ、またチンポに目を戻して、にいぃっ、と笑顔になる。
無邪気さなど微塵も感じられない、男の欲情をことさらに誘うような、年不相応な笑いだった。
思わぬ色香にあてられて、ひくん、

とペニスが小さく動く。そのようすを見て、杏月ちゃんの笑みがますます深くなった。
「どしたん、あずっち」
　莉玖ちゃんのさらに左、いちばん端に座っていた子が、ぴょこんとツインテールを揺らして杏月ちゃんの顔を覗き込む。
「あ」
　そしてすぐ、杏月ちゃんが熱心に見つめているオレのチンポに気がついた。
「うわっ、うわうわっ」
　にまにま笑いながら、莉玖ちゃんの太ももをぺちぺちと叩くツインテちゃん。
「なんだよ、姫乃（ひめの）」
「見て見てほら」
　いたずらっぽい笑みを浮かべて、姫乃ちゃんはオレの半勃起をつんつんとつつくような仕草で指さした。

「ん？　あっ……」
　めんどくさそうに向けられた小麦色の顔が、とたんに恥ずかしそうに紅潮する。
「えっ、ちんこ、すご……」
　おろおろと目を泳がせながらもしっかりと至近距離で見つめられて、分身がびくんと跳ねる。
「わ、わ、わ……」
　莉玖ちゃんはボーイッシュな見た目に似合わず、もじもじと内股になって右隣の杏月ちゃんにしがみついた。
「なに」
　友だちの異変に気づいたのか、杏月ちゃんの右側から、ぼうっとしていた不思議ちゃんっぽい雰囲気の子がこっちを覗き込む。この子もすぐに勃起に気づいたらしく、眠たげだった目が大きく見開かれた。
「ぼっきしてる」

はっきりと口にされたとたん、全身を緊張が駆け抜けた。
（まずいまずいまずい……ロリたちにはっきり勃起してるの認識されながらチンポ凝視されてる……騒がれたら人生終了なやつだぞコレ……）
焦りとは裏腹に、四人の少女が見守るなか、ぐん、ぐん、とペニスはますます硬度を増していって、ついにはフル勃起状態にまで達してしまった。
ジャージもその下のトランクスも、古びて生地が薄くなってしまっているせいでまったくおさえにはならず、勃起はまっすぐまえへ伸びて四人の少女たちの眼前でこれでもかとばかり存在を主張している。
「ひめ、はじめて勃起見ちゃったぁ♪」
ツインテ姫乃ちゃんがはしゃいだ声を出す。
「……」

おさげの杏月ちゃんはぺろりと唇を舐めて、ただただじっとオレの勃起に見入っている。
「あ、あのさ、姫乃」
おずおずと小さく手を挙げて、ボーイッシュ莉玖ちゃんが姫乃ちゃんに顔を寄せる。
「ぼ、ぼっきって、その……」
「あれ？　莉玖、知らない？」
「いや、聞いたことはあるかなーってくらいで」
「勃起ってのはねー」
姫乃ちゃんが得意そうに薄い胸をそらせて説明しようとしたところへ、
「ちんちんがおっきくなること」
不思議ちゃんが割って入った。
「あーっ、なんで凪（なぎ）がゆっちゃうかなー！」
ぷんすこする姫乃ちゃんに、凪ちゃんは真顔で首をかしげる。

「莉玖が知らないって言うから」
「けど姫乃はともかくさ、凪もよく知ってたよね」
　莉玖ちゃんは感心したようすで凪ちゃんを見た。
「杏月に教えてもらった」
　凪ちゃんが言ったとたん、杏月ちゃんの顔がボンッと赤くなり、急にあたふたしはじめる。
「あっ、ちがくて、あず、あの、おにいちゃんいるし」
「あー、おにいちゃんのエッチな本でも見たんでしょ」
「だっ、だって！　あずでも見れるとこに置いてあるから……」
　ごにょごにょとことばを濁しつつ、杏月ちゃんは恥ずかしそうにうつむいた。そして目だけでまたオレの勃起を見つめてくる。
（この子はむっつりスケベなのか……

まじめそうなくせして股間に悪すぎる）

杏月ちゃんの熱視線を受けて、フル勃起がびくんびくんと跳ねあがる。

目のまえで勃起の話題で盛りあがられながらそんなふうに見つめられていたら、おさまるものもおさまらない。

せめてナニの向きを変えて目立たなくするとか、少しでもごまかしたいところではあるのだが、吊り革から片手でも離そうものならうしろからの圧力でロリたちに向かってダイブしてしまいかねない。

フル勃起させていきなり覆いかぶさりでもしたら、確実に実名報道されて社会的死亡を迎えるハメになってしまう。

いまだってロリたちに勃起を見せつけている格好ではあるものの、生理現象だし、モロにブツを見せてるわけで

もないし、下手に動いて事態のさらなる深刻化を招くおそれがあるくらいなら、このままの状態でいるほうがまだマシというか、この場合は最善なのだろう。
「ひめ、お風呂でパパのちんちん勃起させようとしてるんだけどさー、ぜんぜんダメなんだよねー。さわろうとすると逃げられちゃうし」
　姫乃ちゃんが身を乗り出してオレの勃起に顔を近寄せる。
　前かがみになったせいでワンピースの胸元が肌から浮いて、ぺたんこな胸が丸見えになる。それでいて乳首だけはさっき見えた杏月ちゃんのものよりも育っていて、つんとかわいらしくとがっているのがなんともいやらしい。
（いやパパすげえな。こんな子と風呂入ったらそれだけでフル勃起だわ）
「ね、ねえ、杏月さぁ、なんかさきっ

ぽからもれてない？」
　あいかわらず内ももをしきりにこすり合わせながら、莉玖ちゃんが杏月ちゃんにもたれかかる。
「な、なんであずに聞くの？」
「だってくわしそうじゃん」
「だからちがくて――」
「がまんじる」
　凪ちゃんがまた割って入った。
「がまんじる？」
「ぼっきしてこーふんすると出るんだって」
　きょとんとする莉玖ちゃんに、凪ちゃんは淡々と説明する。
「ちんちんから？　おしっこじゃなくて？」
「ちがう。どっちかっていうとせいえき寄り」
「せいえき？」
「しゃせいすると出る白いやつ」

　莉玖ちゃんと凪ちゃんに挟まれて身を縮こまらせながら、杏月ちゃんは気の毒なほど真っ赤になっている。
「じゃーさじゃーさ、このまま待ってれば、せいえき？　って出るのかな？」
「わかんない。見えないし」
　凪ちゃんはそう言ってオレの顔をまっすぐに見上げた。
　つられたように姫乃ちゃんが、莉玖ちゃんが、そして最後に杏月ちゃんも、上目遣いでひかえめに見つめてくる。
　先走りを先端ににじませたフル勃起越しにロリっ子四人の視線をいっせいに受けて、オレはあまりの情景に気が遠くなりそうだった。
　なにか期待するような面持ちの四人から目を離せずにいると、やがて姫乃ちゃんの顔がぱっと明るくなった。
「そうだ！　だったらさー……」
　悪い予感しかしない。

「えいっ♪」

　ツインテールが腰のあたりで踊ったかと思うと突然、下半身が場違いな開放感に包まれた。

　えっと思って視線を落とすと、引き下ろされたジャージとトランクスから解き放たれた赤黒い勃起が、いたいけな少女四人が見守るなか、勢いよく飛び出した反動で大きく上下に跳ねていた。

つづきは製品版で
お楽しみください

■サークル「破滅乱淫オーガズム」作品一覧

＊2024年8月現在

◎既刊

① 委員長・静井莉子の露出自慰日記
～優等生のカゲキなイキぬき～

② ロリのふりして脱法露出！
合法ロリでも外で脱いだら違法です!!

③ 露出体験告白１ イキすぎた公開絶頂

④ 着衣女性×露出男性 勃起見せつけ体験集１

⑤ 時間停止能力を手に入れて露出オナニーを
満喫してたら人生終了しちゃった話

⑥ 露出体験告白２ 痴女たちの全裸淫戯
(『全裸になりたいわたしたち 露出体験告白２』改題)

⑦ 身動きできない満員電車でロリたちに
勃起を勝手に出されて射精させられた話

⑧ イメージビデオに出演したら挿入がないだけで
ほぼＡＶみたいな撮影だった話

⑨ 着衣女性×射精男性 勃起見せつけ体験集２

◎近刊

＊ 男は誰もがチンポの虜 兜合わせ体験集

＊ 怪淫譚 心霊絶頂体験集

＊ 露出体験告白３ 公然のイキ恥さらし

＊ 娘がアダルトライブチャットをしていたので
　エロいリクエストをしまくった話

（近刊の発売順は変更になる場合があります）

★各電子書籍ストア、ダウンロード販売サイトにて発売中！

（ストア、サイトによっては規約の関係上、
一部扱いのない作品があります）